

平成28年度

郡上市公営企業会計決算審査意見書

郡 上 市 監 査 委 員

郡監第10号

平成29年8月31日

郡上市長 日置 敏明 様

郡上市監査委員 大坪 博之

郡上市監査委員 兼山 悌孝

平成28年度郡上市公営企業会計決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された平成28年度郡上市病院事業会計、郡上市水道事業会計利益の処分及び決算について審査したので、次のとおり意見を提出します。

目 次

平成 28 年度郡上市公営企業会計決算審査意見書

第 1	審査の種類	1
第 2	審査の対象	1
第 3	審査の着眼点	1
第 4	審査の方法	1
第 5	審査の実施場所及び日程	1
第 6	審査の結果	1
第 7	郡上市病院事業会計	2
1	業務実績	2
(1)	入院患者について	2
(2)	外来患者について	2
(3)	施設整備について	4
2	予算執行状況	4
(1)	収益的収入及び支出について	4
(2)	資本的収入及び支出について	6
(3)	その他の予算事項について	7
3	経営成績	8
(1)	経営の推移について	8
4	財政状態	9
(1)	資産について	9
(2)	負債及び資本について	1 1
(3)	財務比率について	1 2
5	総括	1 3
第 8	郡上市水道事業会計	1 5
1	業務実績	1 5
(1)	給配水状況について	1 5

(2) 建設改良について	1 5
2 予算執行状況	1 6
(1) 収益的収入及び支出について	1 6
(2) 資本的収入及び支出について	1 7
(3) その他の予算事項について	1 7
3 経営成績	1 8
(1) 収益について	1 8
(2) 費用について	1 8
4 財政状態	1 9
(1) 資産について	1 9
(2) 負債及び資本について	2 0
(3) 企業債について	2 0
(4) 給水収益未収金について	2 1
(5) 財務比率について	2 1
5 総括	2 2

凡 例

1. 比率(%)は、原則として小数点以下第3位を四捨五入した。
2. 構成比(%)は、原則として合計が100となるよう一部調整した。
3. 各表中の「0.0」は、該当数値が「0.05」未満のものである。
4. 各表中の「―」は、該当数値のないものである。
5. 各文章中の説明について、科目名・事業名などは高額又は高率順に記載した。

平成 28 年度 郡上市公営企業会計決算意見

第 1 審査の種類

決算審査（地方公営企業法第 30 条第 2 項）

第 2 審査の対象

平成 28 年度郡上市病院事業会計決算

平成 28 年度郡上市水道事業会計利益の処分及び決算

第 3 審査の着眼点

審査に付された決算諸表について、関係法令に準拠して調整されているか、平成 28 年度の予算が適正に執行され、定める目的に従って事務や事業が合法的、効果的、効率的に実施されたか、決算に示された数値に誤りがないか、計算が正しく行われているか、また経営活動は合理的かつ能率的に行われているかを関係帳票及び証拠書類と対比して審査した。

第 4 審査の方法

審査に当たっては、各事業会計決算書及び付属書類等を基に、決算諸表が地方公営企業法及び関係法令に準拠して作成されているか、関係諸帳簿の照合等及び経営内容の把握のため、係数分析の他、出納検査と定期監査の結果を参照し、併せて、関係職員の説明を聴取して実施した。

第 5 審査の実施場所及び日程

審査実施場所 郡上市役所 4 階委員会室

審査実施日程 平成 29 年 7 月 20 日、25 日の 2 日間

第 6 審査の結果

審査に付された各企業の決算諸表は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その係数及び関係諸帳簿は正確であり、各事業の経営成績及び財政状態が適正に表示されていることを認めた。

審査の概要と意見については、次に述べるとおりである。

第7 郡上市病院事業会計

1 業務実績

平成28年度の業務実績は以下のとおりである。

(1) 入院患者について

入院患者数は6万532人で、前年度と比較して2,301人(3.66%)の減であり、内訳は、郡上市民病院が4万5,363人で前年度と比較して3,241人(6.67%)の減、国保白鳥病院が1万5,169人で前年度と比較して940人(6.61%)の増となっている。

予算に定められた予定量に対しては、郡上市民病院が4,642人(9.28%)、国保白鳥病院が2,716人(15.19%)下回っている。

当年度の病床利用率は、郡上市民病院が82.9%で前年度と比較して5.6ポイントの減、国保白鳥病院が69.3%で前年度と比較して4.5ポイントの増となっている。

(2) 外来患者について

外来患者数は15万1,230人で、前年度と比較して3,689人(2.38%)の減であり、内訳は、郡上市民病院が10万3,952人で前年度と比較して1,987人(1.88%)の減、国保白鳥病院が4万7,278人で前年度と比較して1,702人(3.47%)の減となっている。

予算に定められた予定量に対しては、郡上市民病院は2,968人(2.78%)、国保白鳥病院は5,939人(11.16%)それぞれ下回っている。

最近３カ年の業務実績は、次表のとおりである。

区 分			平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
患者数	入 院	市民病院	50,181 人	48,604 人	45,363 人
		白鳥病院	17,237 人	14,229 人	15,169 人
		計	67,418 人	62,833 人	60,532 人
	外 来	市民病院	105,840 人	105,939 人	103,952 人
		白鳥病院	52,641 人	48,980 人	47,278 人
		計	158,481 人	154,919 人	151,230 人
	年 度 比較指数	市民病院	104.7 %	99.1 %	96.6 %
		白鳥病院	97.0 %	90.5 %	98.8 %
	入 院 1 日平均	市民病院	137.5 人	132.8 人	124.3 人
		白鳥病院	47.2 人	38.9 人	41.6 人
	外 来 1 日平均	市民病院	433.8 人	436.0 人	427.8 人
		白鳥病院	215.7 人	201.6 人	194.6 人
訪問看護 ステーション	利用者数	白鳥病院	2,335 人	1,867 人	2,212 人
	利用者 一日平均	白鳥病院	9.6 人	7.7 人	9.1 人

病院別・診療科別の患者数は、次表のとおりである。

郡上市民病院

単位：人

区 分	内 科	外 科	整 形 外 科	小児科	耳 鼻 咽喉科	泌 尿 器 科	産 婦 人 科
平成 28 年度	46,271	20,902	20,209	11,103	8,299	4,698	15,610
平成 27 年度	45,566	23,514	21,571	10,841	8,978	6,008	16,881
比 較	705	-2,612	-1,362	262	-679	-1,310	1,271

区 分	脳 神 経 外 科	心 療 内 科	救 急 科 (脳外)	計
平成 28 年度	14,525	7,574	124	149,315
平成 27 年度	13,742	7,297	145	154,543
比 較	783	277	-21	-5,228

区 分	内 科	外 科	整 形 外 科	小児科	婦人科	皮膚科	訪問看護 ステーション	計
平成 28 年度	34,182	4,175	10,798	7,720	1,408	4,164	2,212	64,659
平成 27 年度	32,485	5,423	12,332	7,761	1,363	3,845	1,867	65,076
比 較	1,697	-1,248	-1,534	-41	45	319	345	-417

(3) 施設整備について（消費税を含まない。）

当年度の施設整備は、郡上市民病院が外来化学療法室増築工事 3,730 万円などが整備され、医療機器等の購入で主なものは、郡上市民病院では一般撮影レントゲン F P D システム 4,610 万円、超音波画像診断装置 3 台 2,390 万円、多用途透析監視装置・個人用多用途透析装置 740 万円、特殊浴槽 600 万円などが整備された。国保白鳥病院では上部消化管ビデオスコープ 290 万円、便潜血測定装置 285 万円、多機能心電計 280 万円などが整備された。

2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出について

(収益的収入)

区 分		予 算 額	決 算 額	構成比	予算額に比べ 決算額の増減	執行率
病 院 事 業 収 益		円 4,308,746,000	円 3,913,841,155	% 100.00	円 -394,904,845	% 90.83
医 業 収 益	合 計	3,880,230,000	3,487,051,143	89.10	-393,178,857	89.87
	市民病院	2,822,211,000	2,549,000,876	65.13	-273,210,124	90.32
	白鳥病院	1,058,019,000	938,050,267	23.97	-119,968,733	88.66
医 業 外 収 益	合 計	403,145,000	406,710,994	10.39	3,565,994	100.88
	市民病院	223,500,000	223,395,541	5.71	-104,459	99.95
	白鳥病院	179,645,000	183,315,453	4.68	3,670,453	102.04
訪 看 ST 収 益	白鳥病院	16,621,000	18,239,822	0.46	1,618,822	109.74
特 別 利 益	合 計	8,750,000	1,839,196	0.05	-6,910,804	21.02
	市民病院	8,000,000	1,011,861	0.03	-6,988,139	12.65
	白鳥病院	750,000	827,335	0.02	77,335	110.31

※この表の金額は消費税を含んでいる。

収益的収入は、決算額が予算額に対して3億9,490万4,845円下回り、執行率は90.83%になっている。

医業収益は34億8,705万1,143円で前年度と比較して1億2,339万1,706円(3.42%)の減となっている。これは市民病院の入院患者数及び診療単価等の減によるところが大きい。

医業外収益は4億671万994円で前年度と比較して277万7,757円(0.69%)の増となっている。これは市民病院の長期前受金戻入や国保白鳥病院の国県補助金が前年度より多くなったことが主な要因である。

特別利益は、183万9,196円で前年度と比較して1,787万2,569円(90.67%)の減となっている。これは国保白鳥病院におけるその他の特別利益がなくなったことが主な要因である。

(収益的支出)

区 分		予 算 額	決 算 額	構成比	不 用 額	執行率
		円	円	%	円	%
病 院 事 業 費		4,308,746,000	4,137,295,688	100.00	171,450,312	96.02
医 業 費 用	合 計	4,089,271,000	3,942,917,428	95.30	146,353,572	96.42
	市民病院	2,896,130,000	2,792,992,872	67.51	103,137,128	96.44
	白鳥病院	1,193,141,000	1,149,924,556	27.79	43,216,444	96.38
医 業 外 費 用	合 計	187,278,000	161,753,218	3.91	25,524,782	86.37
	市民病院	148,581,000	122,960,087	2.97	25,620,913	82.76
	白鳥病院	38,697,000	38,793,131	0.94	-96,131	100.25
訪 看 ST 事業費	白鳥病院	17,097,000	17,792,859	0.43	-695,859	104.07
特 別 損 失	合 計	151,000,000	14,832,183	0.36	267,817	98.23
	市民病院	9,000,000	8,782,959	0.21	217,041	97.59
	白鳥病院	6,100,000	6,049,224	0.15	50,776	99.17

※この表の金額は消費税を含んでいる。

収益的支出は、予算額に対し、決算額は1億7,145万312円の不用額が生じ、執行率は96.02%となっている。

医業費用は39億4,291万7,428円で前年度と比較して1,220万4,147円(0.31%)の増となっている。これは、これは国保白鳥病院の医師等の増員による給与費の増によることが主な要因である。

医業外費用は1億6,175万3,218円で前年度と比較して985万5,687円(5.74%)の減となっている。これは両病院の企業債利息及び国保白鳥病院の控除対象外消費税の減

によることが主な要因である。

特別損失は1,483万2,183円で、前年度と比較して2,496万3,837円（62.73%）の減となっている。これは市民病院の過年度分保険請求査定の減及び国保白鳥病院の石徹白診療所の所管換えによる除却費用が平成28年度は計上されなかったことが主な要因である。

（２）資本的収入及び支出について

（資本的収入）

区 分		予 算 額	決 算 額	構成比	予算額に比べ 決算額の増減	執行率
資 本 的 収 入		円	円	%	円	%
		290,270,000	285,911,000	100.00	-4,359,000	98.50
企 業 債	合 計	89,100,000	88,500,000	30.95	-600,000	99.33
	市民病院	89,100,000	88,500,000	30.95	-600,000	99.33
	白鳥病院	0	0	0.00	0	0.00
出 資 金	合 計	168,794,000	168,461,000	58.92	-333,000	99.80
	市民病院	104,190,000	104,226,000	36.45	36,000	100.03
	白鳥病院	64,604,000	64,235,000	22.47	-369,000	99.43
負 担 金	合 計	24,600,000	21,550,000	7.54	-3,050,000	87.60
	市民病院	14,600,000	11,550,000	4.04	-3,050,000	79.11
	白鳥病院	10,000,000	10,000,000	3.50	0	100.00
補 助 金	合 計	7,776,000	7,400,000	2.59	-376,000	95.16
	市民病院	5,076,000	4,700,000	1.64	-376,000	92.59
	白鳥病院	2,700,000	2,700,000	0.95	0	100.00

※この表の金額は消費税を含んでいる。

資本的収入は、決算額が予算額に対し435万9,000円下回り、執行率は98.50%となっている。

企業債は8,850万円で、前年度と比較して4,690万円（112.74%）の増となっている。これは市民病院が外来化学療法室や医療機器の整備をしたことによるものである。

出資金は1億6,846万1,000円で、前年度と比較して679万7,000円（4.20%）の増となっている。

負担金は2,155万円で、前年度と比較して223万8,000円（11.59%）の増となってい

る。これは両院の器械備品購入費が主な要因である。

補助金は740万円で、前年度と比較して2,629万5,889円（78.04%）の減となっている。これは市民病院の産科医療機関確保事業費補助金が減額となったこと、国保白鳥病院の国県補助金として、国保調整交付金が大幅に減額となったことが主な要因である。

（資本的支出）

区 分		予 算 額	決 算 額	構成比	不 用 額	執行率
資 本 的 支 出		円 640,366,000	円 607,571,415	% 100.00	円 32,794,585	% 94.88
建設改良費	合 計	209,290,000	180,338,123	29.68	28,951,877	86.17
	市民病院	191,961,000	166,422,585	27.39	25,538,415	86.70
	白鳥病院	17,329,000	13,915,538	2.29	3,413,462	80.30
企業債償還金	合 計	425,876,000	425,683,292	70.06	192,708	99.95
	市民病院	303,518,000	303,425,438	49.94	92,562	99.97
	白鳥病院	122,358,000	122,257,854	20.12	100,146	99.92
投 資	合 計	5,200,000	1,550,000	0.26	3,650,000	29.81
	市民病院	4,600,000	1,550,000	0.26	3,050,000	33.70
	白鳥病院	600,000	0	0.00	600,000	0.00

※この表の金額は消費税を含んでいる。

資本的支出は、予算額に対し、決算額は3,279万4,585円の不用額が生じ、執行率は94.88%となっている。

建設改良費は1億8,033万8,123円で前年度と比較して4,332万2,022円（31.62%）の増となっている。これは、市民病院の外来化学療法室や医療機器の整備が主な要因である。

企業債償還金は4億2,568万3,292円で前年度と比較して1,523万510円（3.71%）の増となっている。年度末の未償還残高は郡上市民病院で48億3,700万9,885円、国保白鳥病院で9億6,899万5,208円となり、合わせて58億600万5,093円となり、前年度より3億3,718万3,292円の減となっている。

（3）その他の予算事項について

①一時借入金について

予算に定められた限度額6億円の内、国保白鳥病院で借入残高最高額1億1,076万3,599円があった。

②議会の議決を経なければ流用することの出来ない経費について

予算に定められた経費は、職員給与費 25 億 4,735 万 6000 円、交際費 100 万円であるが、いずれも他の経費との間における流用はなく執行されている。

3 経営成績

(1) 経営の推移について

単位：千円

区分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
市民病院	医業収益	2,785,513	2,888,530	2,778,342	2,700,016	2,537,872
	医業外収益	237,812	216,583	220,886	220,707	222,898
	特別利益	14,804	5,190	8,015	4,235	1,004
	総収益	3,038,129	3,110,303	3,007,243	2,924,958	2,761,774
	医業費用	2,690,983	2,759,850	2,784,500	2,752,322	2,747,224
	医業外費用	163,247	168,293	179,540	170,622	169,875
	特別損失	9,969	123,147	124,853	13,168	8,775
	総費用	2,864,199	3,051,290	3,088,893	2,936,112	2,925,874
	当年度純利益	173,930	59,013	-81,650	-11,154	-164,100
	未処理欠損金	474,471	415,458	489,974	501,128	665,228
白鳥病院	医業収益	1,040,363	1,049,991	1,004,640	889,500	928,078
	医業外収益	134,149	129,353	126,131	182,695	183,045
	訪看 S T 収益	19,358	19,168	21,270	17,057	18,226
	特別利益	520	722	1,587	15,455	826
	総収益	1,194,390	1,199,234	1,153,628	1,104,707	1,130,175
	医業費用	1,092,818	1,087,288	1,134,578	1,116,292	1,133,503
	医業外費用	53,337	50,794	64,862	50,877	46,763
	訪看 S T 費用	15,193	15,920	16,294	16,391	17,743
	特別損失	5,497	40,899	46,252	26,570	6,040
	総費用	1,166,845	1,194,901	1,261,986	1,210,130	1,204,049
	当年度純利益	27,545	4,333	-108,358	-105,423	-73,874
	未処理欠損金	619,361	615,028	723,339	828,762	902,636

※この表の金額は消費税を含まない。

(最近3カ年の患者1人1日当たりの診療収入)

単位：円

区 分		平成 26 度	平成 27 度	平成 28 度
市民病院	入 院	32,929	32,720	32,298
	外 来	8,876	8,669	8,614
白鳥病院	入 院	27,014	25,925	26,873
	外 来	8,224	8,084	8,081
	訪問看護ステーション	9,109	9,136	8,239

市民病院の入院患者数、外来患者数、診療単価ともに前年度と比較して減っており、医業収益は減となっている。

4 財政状態

(1) 資産について

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	増減額	増減率
資 産		円	円	円	%
		8,147,949,625	7,831,979,757	-315,969,868	-3.88
固定資産	合 計	6,886,986,879	6,715,326,796	-171,660,083	-2.49
	市民病院	5,661,566,502	5,567,163,966	-94,402,536	-1.67
	白鳥病院	1,225,420,377	1,148,162,830	-77,257,547	-6.30
流動資産	合 計	1,260,962,746	1,116,652,961	-144,309,785	-11.44
	市民病院	1,074,380,194	924,953,875	-149,426,319	-13.91
	白鳥病院	186,582,552	191,699,086	5,116,534	2.74

※この表の金額は消費税を含まない。

当年度の資産総額は、78 億 3,197 万 9,757 円で、前年度と比較して 3 億 1,596 万 9,868 円 (3.88%) の減となった。

固定資産は 67 億 1,532 万 6,796 円で、前年度と比較して 1 億 7,166 万 83 円 (2.49%) の減となっている。このうち、有形固定資産は郡上市民病院で主に建物の減価償却等により、前年度と比較して 8,869 万 824 円 (1.57%) の減、国保白鳥病院で建物及び器械備品の減価償却等により 7,779 万 7,547 円 (6.36%) の減となっている。投資は 381 万

7,000 円で、前年度と比較して 515 万円（57.43％）の減となっているが、郡上市民病院の医療職員修学資金貸付金及び医療職員就職準備資金貸付金に対する貸倒引当金の増が主な要因となっている。

流動資産は11億1,665万2,961円で、前年度と比較して1億4,430万9,785円（11.44％）の減となっている。主なものは現金・預金で、前年度と比較して、国保白鳥病院で1,062万829円（747.34％）増の1,204万1,976円となったが、郡上市民病院では1億3,563万8,702円（22.96％）減の4億5,505万8,168円となっている。

また、当年度の3月31日現在の未収金残高は6億2,885万4,713円で、前年度と比較して1,487万4,874円（2.31％）の減となっている。これは、市民病院の保険分が1,705万710円の減となっていることが主な要因であり、窓口負担分は前年度と比較して256万5,567円（5.21％）増となっている。

医 業 未 収 金 内 訳 表

区 分		郡上市民病院	国保白鳥病院	合 計
窓 口 負 担 分	入 院	481 件	111 件	592 件
		26, 043, 440 円	5, 904, 548 円	31, 947, 988 円
	外 来	1, 620 件	220 件	1, 840 件
		18, 836, 415 円	682, 747 円	19, 519, 162 円
	訪問看護報酬	- 件	74 件	74 件
		- 円	304, 342 円	304, 342 円
保 険		15 件	32 件	47 件
		354, 654, 974 円	139, 288, 027 円	493, 943, 001 円
そ の 他		43 件	60 件	103 件
		53, 991, 206 円	29, 149, 014 円	83, 140, 220 円
合 計		2, 159 件	497 件	2, 656 件
		453, 526, 035 円	175, 328, 678 円	628, 854, 713 円

（平成 29 年 3 月 31 日現在）

(2) 負債及び資本について

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	増減額	増減率
負債・資本合計		円 8,147,949,625	円 7,831,979,757	円 -315,969,868	% -3.88
負 債		6,794,098,457	6,547,642,127	-246,456,330	-3.63
固定負債	合 計	5,734,046,603	5,389,815,149	-344,231,454	-6.00
	市民病院	4,765,051,395	4,528,968,584	-236,082,811	-4.95
	白鳥病院	968,995,208	860,846,565	-108,148,643	-11.16
流動負債	合 計	804,989,100	901,746,450	96,757,350	12.02
	市民病院	578,175,868	628,168,649	49,992,781	8.65
	白鳥病院	226,813,232	273,577,801	46,764,569	20.62
繰延収益	合 計	255,062,754	256,080,528	1,017,774	0.40
	市民病院	81,077,807	83,213,567	2,135,760	2.63
	白鳥病院	173,984,947	172,866,961	-1,117,986	-0.64
資 本		1,353,851,168	1,284,337,630	-69,513,538	-5.13
資本金	合 計	2,660,847,717	2,829,308,717	168,461,000	6.33
	市民病院	1,797,916,783	1,902,142,783	104,226,000	5.80
	白鳥病院	862,930,934	927,165,934	64,235,000	7.44
剰余金	合 計	-1,306,996,549	-1,544,971,087	-237,974,538	18.21
	市民病院	-486,275,157	-650,375,742	-164,100,585	33.75
	白鳥病院	-820,721,392	-894,595,345	-73,873,953	9.00

※この表の金額は消費税を含まない。

当年度の負債総額は 65 億 4,764 万 2,127 円で、前年度と比較して 2 億 4,645 万 6,330 円（3.63%）の減となっている。

これは両病院の固定負債である企業債が 3 億 3,762 万 4,379 円減したことが主な要因である。流動負債では市民病院の返済期間が 1 年以内の企業債及び未払金が、前年度と比較して 4,523 万 4,162 円の増となっており、国保白鳥病院では 6,930 万 2,249 円の一時借入金が発生している。

資本総額は 12 億 8,433 万 7,630 円で、前年度と比較して 6,951 万 3,538 円（5.13%）

の減となっている。

資本金は前年度と比較して 1 億 6,846 万 1,000 円 (6.33%) の増となっている。これは市民病院で 1 億 422 万 6,000 円、国保白鳥病院で 6,423 万 5,000 円の増となったことが主な要因である。また、剰余金は前年度と比較して 2 億 3,797 万 4,538 円 (18.21%) の減となっており、両病院の未処理欠損金が増となったことが主な要因である。当年度未処理欠損金は、郡上市民病院が 1 億 6,410 万 585 円 (32.75%) 増の 6 億 6,522 万 8,342 円、国保白鳥病院が 7,387 万 3,953 円 (8.91%) 増の 9 億 263 万 5,424 円となっている。

(3) 財務比率について

当年度の財務に関する主要比率は次のとおりである。

(財務比率)

単位：％

区 分		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
経 常 収 支 比 率	市民病院	101.19	99.92	94.64
	白鳥病院	94.76	92.03	94.23
医 業 収 支 比 率	市民病院	99.78	98.10	92.38
	白鳥病院	88.55	79.68	81.88
固 定 比 率	市民病院	473.28	431.64	444.74
	白鳥病院	1,547.91	2,903.18	3,525.15
流 動 比 率	市民病院	196.81	185.82	147.25
	白鳥病院	109.23	82.26	70.07
自 己 資 本 構 成 比 率	市民病院	17.75	19.47	19.28
	白鳥病院	5.42	2.99	2.43

- ・ 経常収支比率は、収支の状況と支払能力を示すもので、経常収益と経常費用を対比したものである。通常 100%以上であることが望ましく、数値が高いほど経営状態が良好といえる。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益} + \text{訪看 ST 収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用} + \text{訪看 ST 費用}} \times 100$$

- ・ 医業収支比率は、業務活動の能率を示すもので、医業収益と医業費用を対比したもの

である。これにより経営活動の成否が判断され、数値が高いほど良好といえる。

$$\text{医業収支比率} = \frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$$

- ・ 固定比率は、固定資産が、資本金などの自己資金で賄われている割合を示すもので、固定資産と自己資本を対比したものである。100%以下が望ましいとされるが、膨大な設備の取得の資金を企業債に依存している公営企業では必然的にこの比率が高くなる。

$$\text{固定比率} = \frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本金+剰余金}} \times 100$$

- ・ 流動比率とは、1年以内に現金化できる資金と支払わなければならない負債とを比較するもので、比率が高ければ高いほど短期債務に対する支払能力を有していることになり、この比率は200%以上が望ましいとされる。

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

- ・ 自己資本構成比率とは、総資本と自己資本との関係を示すもので、比率が高いほど経営の健全性が高いとされる。通常50%以上が望ましいとされるが、建設改良の資金を企業債に依存している公営企業では比率が低くなる。

$$\text{自己資本構成比率} = \frac{\text{自己資本金+剰余金}}{\text{総資本（負債+資本）}} \times 100$$

5 総括

両病院とも前年度に引き続いての赤字決算となり、大変厳しい状況となっている。

業務の実績について、国保白鳥病院の入院患者数は増加しているが、郡上市民病院では入院、外来患者ともに減少している。郡上市民病院の年間病床利用率は82.9%と高い数値ではあるが、前年比5.6ポイント減となっている。国保白鳥病院の年間病床利用率は前年比4.5ポイント増の69.3%と改善しており、両病院とも今後の動向が気にか

かるところである。

設備の充実については、市民病院は一般撮影（レントゲン）F P Dシステムへの更新等 27 点で 1 億 768 万円となる医療機器等の整備と外来化学療法室増築事業 4,030 万円の施設整備が行われた。耐用年数を超えた医療機器の更新が主な理由ではあるが、より高度な医療を進めていくためには最新の技術を駆使した医療器具の導入は必要な措置と理解する。白鳥病院は上部消化管ビデオスコープ更新等 9 点で 1,288 万円ほどの医療機器等の整備に^{とど}まり、資金繰りの悪化により予定した機器の整備がなされていない。

財務比率を見ると、経常収支比率については、市民病院が 94.64%と前年度に引き続き理想比率の 100%を下回っている。白鳥病院も前年度と比べて 2.24 ポイント改善しているが、94.27%と 100%を下回っている。医業収支比率は白鳥病院で増加しているものの、両病院ともに引き続き 100%を下回っている。固定比率は依然として高いままであるが、特に白鳥病院は非常に高い状態で推移している。流動比率は両病院とも毎年下がってきており、理想比率の 200%を下回っている。自己資本構成比率は両病院とも企業債の割合が高いため、理想比率とする 50%を大きく下回っている。

未収金については、窓口負担分は前年度より増加しているが、保険はそれ以上に減少しているため総額では減少している。今後も未収金の根源である現年度の滞納の原因をよく分析し、対策を講じることが肝要である。また、かなり前からの滞納もありなかなか減っていかない状況にある。受益者負担の公平性の観点から、今後とも債権の適切な管理による収益の確保と、新たな未収金の発生防止に努められたい。

平成 28 年度は、市民病院においては入院患者数および診療単価の減少等により大変厳しい結果となった。白鳥病院は県北西部地域医療センターとして 2 年目となり、医師の支援体制については順調に推移されている。また、11 月より地域包括ケア病床を導入したことで入院患者数を増加させている。国では、急速な高齢化により急増する医療・介護の需要に対応するため、病院・病床機能の役割分担や医療機関間、医療と介護の間の連携強化を通じて、より効果的で効率的な医療・介護サービスの提供体制の構築を掲げている。刻々と変化する社会環境の変化に対応した柔軟で効率的な運営に取り組むなど、公的医療機関としての使命である公共の福祉の増進及び医療水準の向上に一層貢献されることを期待する。

第8 郡上市水道事業会計

1 業務実績

平成28年度の業務実績は以下のとおりである。

(1) 給配水状況について

	平成27年度	平成28年度	前年度比較	増減率(%)
給水人口	13,052 人	12,816 人	-236 人	-1.81
給水戸数	6,096 戸	6,101 戸	5 戸	0.08
年間配水量	1,884,863 m ³	1,876,342 m ³	-8,521 m ³	-0.45
1日平均配水量	5,164 m ³	5,141 m ³	-23 m ³	-0.45
年間給水量	1,603,198 m ³	1,585,587 m ³	-17,611 m ³	-1.10
1日平均給水量	4,392 m ³	4,344 m ³	-48 m ³	-1.09
有収率	85.1 %	84.5 %	-0.6 ポイント	-0.71

当年度末における給水人口は、1万2,816人で、前年度と比較して236人(1.81%)の減となった。また、給水戸数は、6,101戸となり前年度と比較して5戸(0.08%)の増となった。予算に定める予定量6,110戸に対し、9戸(0.15%)下回っている。

年間配水量については、187万6,342m³で前年度と比較して8,521m³(0.45%)の減となった。

年間給水量については、158万5,587m³で前年度と比較して1万7,611m³(1.10%)の減となった。予算に定める予定量158万3,878m³に比べ、1,709m³(0.11%)上回っている。

水道料金の対象となる水量を表す有収率は84.5%で前年度と比較して0.6ポイント下回っている。

(2) 建設改良について

建設改良事業として、八幡町東町地内に増設予定の第2配水池用地3,053m²を取得し、配水池測量設計業務に着手された。

2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出について

(収益的収入)

区 分	予 算 額	決 算 額	構成比	予算額に比べ 決算額の増減	執行率
水 道 事 業 収 益	円 369,548,000	円 379,013,962	% 100.00	円 9,465,962	% 102.56
営 業 収 益	227,368,000	233,113,202	61.51	5,745,202	102.53
営 業 外 収 益	142,160,000	145,739,393	38.45	3,579,393	102.52
特 別 利 益	20,000	161,367	0.04	141,367	806.84

※この表の金額には消費税を含む

収益的収入の決算額は、3 億 7,901 万 3,962 円で、予算額に対する執行率は全体で 102.56%であった。

営業収益の主なものは給水収益の水道使用料で 2 億 3,022 万 6,142 円となっている。営業外収益の主なものは国庫補助金等の長期前受金戻入で 8,908 万 1,881 円となっている。

(収益的支出)

区 分	予 算 額	決 算 額	構成比	繰越額	不用額	執行率
水 道 事 業 費 用	円 337,747,000	円 302,218,505	% 100.00	円 0	円 35,528,495	% 89.48
営 業 費 用	282,041,000	253,119,669	83.75	0	28,921,331	89.75
営 業 外 費 用	50,146,000	48,852,816	16.17	0	1,293,184	97.42
特 別 損 失	560,000	246,020	0.08	0	313,980	43.93
予 備 費	5,000,000	0	0.00	0	5,000,000	0.00

※この表の金額には消費税を含む

収益的支出の決算額は、3 億 221 万 8,505 円となり、予算額に対する執行率は全体で 89.48%であった。

営業費用の主なものは有形固定資産減価償却費 1 億 7,908 万 5,229 円である。営業外費用の主なものは企業債利息で 3,444 万 4,216 円である。

(2) 資本的収入及び支出について

(資本的収入)

区 分	予 算 額	決 算 額	構成比	予算額に比べ 決算額の増減	執行率
資 本 的 収 入	円 33,439,000	円 33,439,000	% 100.00	円 0	% 100.00
出 資 金	33,439,000	33,439,000	100.00	0	100.00

※この表の金額には消費税を含む

資本的収入の決算額は、3,343 万 9,000 円となり、予算額に対する執行率は全体で 100.00%であった。

出資金は一般会計からの出資金であり、これは企業債元金償還に充てられている。

(資本的支出)

区 分	予 算 額	決 算 額	構成比	繰越額	不用額	執行率
資 本 的 支 出	円 169,850,000	円 167,218,692	% 100.00	円 0	円 2,631,308	% 98.45
建 設 改 良 費	70,555,000	67,925,560	40.62	0	2,629,440	96.27
企業債償還金	99,295,000	99,293,132	59.38	0	1,868	100.00

※この表の金額には消費税を含む

資本的支出の決算額は、1 億 6,621 万 8,692 円となり、予算額に対する執行率は 98.45%であった。

建設改良費は八幡町東町配水池整備事業による土地購入である。企業債償還金の借入先は財政融資資金及び地方公共団体金融機構資金となっている。

(3) その他の予算事項について

①企業債について

当年度の企業債は予算化されていない。

②一時借入金について

予算に定められた限度額は 3,000 万円であるが、当年度は執行されていない。

③議会の議決を経なければ流用することのできない経費について

予算に定められた経費は、職員給与費で 3,894 万 7,000 円であるが、他の経費との間の流用はなく、予算に定められた範囲内で執行している。

3 経営成績

経営収支の推移は、次表のとおりである。

(単位：千円)

区 分	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
営 業 収 益	222,771	221,288	218,762	218,304	216,046
営 業 外 収 益	60,209	56,133	150,166	146,323	145,171
特 別 利 益	0	15,117	0	181	154
営 業 費 用	210,943	174,260	266,082	256,192	250,857
営 業 外 費 用	46,033	43,321	40,385	37,471	34,452
特 別 損 失	116	255	4,792	483	232
当 年 度 純 利 益	25,888	74,702	57,669	70,662	75,830

(1) 収益について

営業収益は前年度と比較して 225 万 7,220 円 (1.03%) の減となっている。給水人口が前年度より 362 人 (2.77%) 減となっており、給水収益が 228 万 7,720 円 (1.06%) 減となったことが主な要因である。

営業外収益は前年度と比較して 115 万 2,783 円 (0.79%) の減となっている。一般会計補助金が前年度と比較して 366 万 3,000 円 (7.49%) 減となったことが主な要因である。

特別利益は前年度と比較して 2 万 7,787 円 (15.31%) の減となっている。

(2) 費用について

営業費用は前年度と比較して 533 万 4,910 円 (2.08%) の減となっている。前年度と比較して原水及び浄水費が 261 万 4,416 円 (14.89%)、配水及び給水費が 261 万 1,002 円 (7.18%) 減となったことが主な要因である。

営業外費用は前年度と比較して 301 万 8,881 円 (8.06%) の減となっている。企業債支払利息が前年度と比較して 301 万 8,831 円 (8.06%) の減となっていることが主な要

因である。

特別損失は前年度に比べ 25 万 2,034 円（52.14%）の減となっているが、過年度分漏水還付及び不納欠損をおこなったものである。

以上の結果、当年度の純利益は前年度と比較して 516 万 8,035 円（7.31%）の増で、7,582 万 9,997 円となった。

4 財政状態

（１）資産について

区 分		平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	増 減 額	増減率
資 産		円	円	円	%
		5,586,606,723	5,493,434,777	-93,171,946	-1.67
	合 計	4,224,267,638	4,111,842,969	-112,424,669	-2.66
	固定資産				
	有形固定資産	4,222,227,338	4,110,267,669	-111,959,669	-2.65
	無形固定資産	2,040,300	1,575,300	-465,000	-22.79
流 動 資 産		1,362,339,085	1,381,591,808	19,252,723	1.41

※この表の金額は消費税を含まない。

当年度の資産総額は、54 億 9,343 万 4,777 円で、前年度と比較して 9,317 万 1,946 円（1.67%）の減となっている。固定資産は 41 億 1,184 万 2,969 円で、前年度と比較して 1 億 1,242 万 4,669 円（2.66%）の減となっている。このうち、有形固定資産が 41 億 1,026 万 7,669 円で、建物、構築物、機械及び装置などの減価償却計上により、前年度と比較して 1 億 1,195 万 9,669 円（2.65%）の減となっている。無形固定資産は 157 万 5,300 円で、主に新公営企業会計システム構築事業ソフトウェア分である。

流動資産は 13 億 8,159 万 1,808 円で、前年度と比較して 1,925 万 2,723 円（1.41%）の増となっている。そのうち主なものは現金預金で、1,928 万 3,947 円（1.42%）の増となっている。

(2) 負債及び資本について

区 分		平成27年度	平成28年度	増 減 額	増減率
負債・資本合計		円	円	円	%
		5,586,606,723	5,493,434,777	-93,171,946	-1.67
負 債	計	3,435,474,286	3,233,033,343	-202,440,943	-5.89
	固 定 負 債	1,065,936,529	963,519,399	-102,417,130	-9.61
	流 動 負 債	123,298,590	112,356,658	-10,941,932	-8.87
	繰 延 収 益	2,246,239,167	2,157,157,286	-89,081,881	-3.97
	計	2,151,132,437	2,260,401,434	109,268,997	5.08
資 本	資 本 金	1,862,087,887	1,970,048,452	107,960,565	5.80
	剰 余 金	289,044,550	290,352,982	1,308,432	0.45

※この表の金額は消費税を含まない。

当年度の負債総額は前年度と比較して2億244万943円(5.89%)の減となっている。固定負債に計上されている返済期限が1年以上の企業債の残高が前年度と比較して1億241万7,130円(9.61%)減となっていることと、繰延収益の収益化累計額が17億2,810万8,728円となったことが主な要因である。

資本総額は22億6,040万1,434円で、前年度と比較して1億926万8,997円(5.08%)の増となっているが、一般会計からの出資金受け入れのほか、当期純利益7,582万9,997円の計上が主な要因である。

(3) 企業債について

当年度は企業債の借入はなく、当年度償還高は9,929万3,132で、年度末における償還残高は10億6,593万6,529円となった。

(4) 給水収益未収金について

(単位：円)

調 定 年 度		人 数	件 数	合 計
過年度	計	102	271	2,230,873
	平成 24 年度	24	86	955,523
	平成 25 年度	27	69	553,732
	平成 26 年度	24	52	311,496
	平成 27 年度	27	64	410,122
現年度	平成 28 年度	178	275	1,797,827
合 計		280	546	4,028,700

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

当年度の給水収益未収金残高は、402 万 8,700 円で、前年度に比べ 65 万 2,963 円 (13.95%) の減となっている。当年度分の未収金が新たに 179 万 7,827 円発生したが、滞納整理及び不納欠損処理の実施により、過年度分の未収金が 66 万 4,233 円減額となったことによるものである。

(5) 財務比率について

最近 3 カ年の財務比率は次表のとおりである。

単位：%

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
総 収 支 比 率	118.53	124.02	126.56
営 業 収 支 比 率	82.22	85.21	86.12
固 定 比 率	214.55	196.37	181.91
流 動 比 率	1,160.04	1,104.91	1,229.65

- ・総収支比率は、総収益と総費用を比較したもので、100%を超える数値が高いほど経営状態が良好といえる。

$$\text{総収支比率} = \frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$$

- ・営業収支比率は、業務活動によってもたらされた営業収益と、それに要した営業費用を対比して業務活動の能率を表すもので、100%を超える数値が高いほど経営状態が良好といえる。100%以上であれば営業利益、100%未満であれば営業損失である。

$$\text{営業収支比率} = \frac{\text{営 業 収 益}}{\text{営 業 費 用}} \times 100$$

- ・固定比率は、固定資産と自己資本との対比で、通常 100%以下であることが望ましいとされるが、上水道等の事業は性質そのものが固定資産を多額に要する業種であり、企業債に依存している公営企業では必然的にこの比率は大となっている。

$$\text{固定比率} = \frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資本金+剰余金}} \times 100$$

- ・流動比率とは、1年以内に現金化できる資金と支払わなければならない負債とを比較するもので、比率が高ければ高いほど短期債務に対する支払能力を有していることになり、この比率は 200%以上が望ましいとされる。

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$$

5 総 括

平成 28 年度の業務実績は、給水人口の減少等により年間配水量と年間給水量はともに減となっている。なお、有収率は前年度の 85.1%から 84.5%となり、0.6 ポイント低下している。

事業経営の比較資料となる給水量 1 立法メートルあたりの営業収益は、136 円 26 銭となっており、営業費用は 158 円 21 銭となっている。1 立法メートルの水道水を給水

することにより 22 円程度の給水損失となっている。修繕費の減及び電気料の値下げ等により営業費用が前年比 2.1%の減となり、営業利益は増となった。それらにより営業収支比率は 100%を割っているが、総収支比率は 126.56%と理想比率の 100%を超えており経営状態は良好と言える。

未処分利益剰余金は 9,135 万円を計上し、前年度に続き黒字経営となっている。維持管理費用の削減など経営努力によるものであり、今後も引き続き取り組まれない。

次に流動比率を見ると、1,229.65%であり理想比率の 200%を大きく上回っていることから経営状態は良好である。

給水収益の未収金は、発生から 5 年を経過した平成 23 年度分 56 万円を不納欠損処理したことと、回収努力により年々改善されている。今後も未収金の新規発生を防ぐとともに、更なる過年度の未収金の回収に努力されたい。

今後も人口減に加え、節水意識の定着や節水機器の普及等により、給水収益は減少傾向が続くと見込まれるが、配水管の漏水修繕及び老朽した施設の更新など水道施設の整備や災害に強いライフラインの構築、簡易水道事業特別会計の会計統合など中長期的な展望に立った事業を進め、適正な料金への見直しを視野に入れたより効率的な経営を展開されるとともに、本来の目的である良質な水の安定供給に努められたい。